

J-POPでお芝居を作ろう

ドラマ・テクニクコース

シーン スタディ



講師
八木
延佳

略歴

ドラマティーチャー・演劇プランナー
国立文楽劇場、劇団四季、東宝
戯曲研究会をへて、演劇公演、ワー
クショップ、セミナーなどで活躍。
関西学院大学、神戸山手短期大学、
大阪府立東住吉高校で講師。
関西文学編集次長、応用ドラマ
教育研究会事務局長。日本演劇
学会、日本劇作家協会、日本演
出者協会、獲得型教育研究会、
日露演劇会議に所属。

advice points

- 事前に歌を聞いてイメージを膨らませておくことが大切。
- 宿題として、各グループで歌の中の人物像を掘り下げておけば、効率的な進行につながる。

より発展的な ワークショップを 実施するために

- 歌詞に書かれていない数年後を演じて、相手役に対する思いを体験することが、生徒にとっては人生の先取りの効果がある。

目的

- ・ J-POPの1曲を選び、歌の世界(詩・曲)を芝居にする。

効果

- ・ 歌詞を通して、登場人物や物語を解釈する力を育成する。
- ・ 自分自身で演じることにより、アーティスト(他者)の世界観を表現する力を育成する。

到達点

- ・ 歌詞から5W1Hを読み取り、時系列や具体的な人物像を作り込む。
- ・ 歌の世界観を感じて演じることにより、リアルな感情を体験し、他者を理解することを学ぶ。



事前学習

J-POPの1曲の歌詞カードを見ながら歌を聴き、簡単な時系列、履歴、人物像を読み取る。

ワークショップの流れ (3日間〈2コマ/日〉)

ミラーゲーム・和音を皆で奏でるエクササイズなどでウォーミングアップ

5W1Hを意識して曲の歌を聴き、時系列を作成

曲のストーリーを読み取り、グループに分かれて、順次、冒頭のシーンを演技発表

登場人物のキャラクターと、登場人物間に生じる出来事を考える演習

登場人物の行動や思いを想定し、1つのシーンを即興で演じる演習

登場人物になったつもりで手紙を書き、相手役と交換し感想発表

役と気持ちをリセットし、振り返りと質疑応答

事後学習

歌の世界観から外れないために、どんなことに注意したかを話しあう。

…ワークショップを実施して…

講師の感想

事前学習や宿題などの取り組みも真面目で、効率的に進めることができた。歌の中の世界を守る以外、ほぼ自由な即興というのは、生徒たちにとって未知の表現方法だったが、最初は戸惑っていても、すぐに歌の世界に入り、自分の感性や感情を表現できるようになって来た。平日の授業で復習をするなど学校側の積極的な関わりの賜物であると思う。

先生の感想

高校生にも実感しやすい内容と教材、講師の丁寧な指導のお陰で、生徒たちは無理なく参加できた。作品を表現する上で不可欠な「過程」を体感させるという期待は十分かなえられた。1つのドラマを表現するために、いかに時間と深い掘り下げが必要なのか、生徒たちは異口同音に驚きと発見を語っていた。

生徒の感想

- ・ メッセージ性やストーリー、人柄など、歌詞に直接表れていない部分が想像以上に深いと思った。
- ・ 役やシーンを想像して演技を本格的にすることはなかったので、本当に楽しかった。
- ・ 自分の中でしっかり消化できてないと、その役を生きられないということを学んだ。